

総務文教常任委員会

市議会改選後新たな委員で補正予算などを審査

4月の市議会改選後、総務文教常任委員も新しいメンバーとなりスタートしています。6月定例会では、総務部門、教育委員会部門に関連する補正予算などが審査され、様々な角度からの議論が行われております。

主な内容

車両維持管理費	216万円
市民バスの購入費の追加予算。 平成30年度当初予算には1,570万円を計上しているが、入札不調により補正	
定住対策新婚世帯家賃助成事業補助金	234万2千円
新婚世帯のアパート等の賃借に対する助成金。利用者の増加により追加補正	
次世代定住支援事業費補助金	810万円
市内在住の若い夫婦や移住者の住宅新築に対する助成金。利用者増により追加補正	
仙北市自主防災組織が実施する災害復旧事業費補助金	50万円
地域の自主防災組織が行う災害復旧事業に対する補助制度の新設。補助額は上限10万円	



更新される市民バス

質問 市民バスの更新については、当初の予算で十分な内容のバスを購入できるとの説明であったにも関わらずなぜ今回予算を追加しなければならなかったのか。
答弁 当初予算作成時には過去に購入したバスの金額（1,470万円）を参考にしたが、入札を

ここが知りたい
議論のポイント
平成30年度補正予算
主な質疑

増加しており、事業の効果が見られる。これらは市単独の事業であるが、市では若い世代向けにPR冊子を作成しその周知に努めている。また、住宅リフォーム制度と合わせ、事業者へもチラシを配布するなどしている。今後、成人式など各種イベントにおいても積極的に制度を宣伝し、定住・移住につながるよう努力

行おうとしたところ指名した3社が全て辞退し不調となった。理由としては、新型バスのモデルチェンジ等により金額が上がっていたことが挙げられる。見積りが甘かった。市民が長期間利用するバスであるため、グレードは落とさず、充実した装備のものを購入するため予算を追加したい。
質問 定住関連事業の実績と今後の展開については。
答弁 新婚世帯へのアパート賃借料等の補助や新築補助の利用者は年々増加しており、事業の効果が

見られる。これらは市単独の事業であるが、市では若い世代向けにPR冊子を作成しその周知に努めている。また、住宅リフォーム制度と合わせ、事業者へもチラシを配布するなどしている。今後、成人式など各種イベントにおいても積極的に制度を宣伝し、定住・移住につながるよう努力

生保内財産区 特別会計補正予算を可決

歳入	
生産物売払収入	1,287万9千円
歳出	
分収林交付金	1,030万4千円
予備費	257万5千円

したいと考えている。
質問 自主防災組織が行う災害復旧事業への新たな補助制度を創設することだが、はたして補助額10万円が十分と言えるのか。
答弁 自主防災組織が行う災害復旧事業としては大規模なものは想定していないため上限を10万円と設定したが、今後は、より柔軟に対応したい。そもそも市内に自主防災組織が少ないため、この制度が組織立上げのきっかけとなるよう支援を強めたい。

市民福祉常任委員会

放課後児童クラブ(西木マロンクラブ)利用者増加のため移設へ

市民福祉常任委員会は、市議会改選後新たな委員会構成となりスタートしています。6月定例会では、西明寺小学校で行われている放課後児童クラブ(マロンクラブ)が、子供達の増加に伴い、旧JA大豆センターに移転する運びとなり、それに関連し倉庫の賃借料や修繕費等が審査されました。

主な内容	マロンクラブ施設整備事業	201万円
	生活保護総務費	37万8千円
	健康増進事業費	27万3千円

生活保護法の改定によるシステム改修費

健康寿命延伸に向けた健康ポイント事業



■マロンクラブが移転設置される
旧JA大豆センター(西木町六本杉)

病院事業会計補正予算を可決

～窓口・レセプト業務を委託から病院直営へ～

市立角館総合病院事業費用 △1,106万6千円

市立角館総合病院では窓口やレセプト業務などをこれまで業者委託しておりましたが、この程契約期間満了に伴い、プロポーザルによる選定を実施したところ、応募業者3社が全て辞退したため、現在委託業者に雇用されている従業員を引き継ぎ、病院直営で業務を行うための補正予算が提案され、審査の結果可決しております。

ここが知りたい 議論のポイント

平成30年度補正予算主な質疑

質問 放課後クラブ支援員の勤務時間、賃金の待遇はどうか。

答弁 勤務時間は、14時30分～18時30分までの4時間で、支援補助で時給760円、2年間の経験や研修で

段階的に賃金上がり、15年以上で時給1,000円となる。

質問 市内の生活保護世帯の内訳は。

答弁 生活保護世帯数は334世帯、450人が受給している。一昨年は350世帯を超えたが近年は減少傾向である。

質問 健康寿命延伸の環境として健康ポイント事業を導入するが、その内容は。

答弁 特定検診受診者や献血者などにポイントを付与し、入浴券・健康器具などを贈呈する。

質問 市立角館病院の窓口業務等について、受託予定業者の辞退により直営を選択した理由は何か。

答弁 時期的に他の業者選定の余地がなく、病院経営に支障をきたす恐れがあることから直営を選択した。

産業建設常任委員会

東北観光復興対策交付金 事業不採択のため大幅減額

市議会改選後初の産業建設常任委員会が開催され、新たなメンバーで一般会計補正予算などが審査されました。一般会計補正予算では、当初見込んでいた国の交付金（東北観光復興対策交付金）が事業の全部または一部が不採択となったことにより大幅減額されるなどの内容が計上されており、今後の広域観光推進事業の実施に課題を残す内容となっており、より一層の工夫が求められます。

主な内容

農業用マルチコプター導入事業費等補助金

226万円

農業用マルチコプターの保有者又は1年以内に保有が見込まれる者に対して、農業用ヘリコプターオペレーター技能認定証取得費用及び機材購入の助成金の増額

花葉館施設整備事業費

227万円

花葉館の温水ポンプ、浄化槽、消防設備等の修繕に要する費用

農業施設災害復旧事業費

566万円

大雨による農地・農業施設に係る災害復旧経費への補助金

公共土木施設災害復旧事業費

3,733万円

大雨による市道、河川及び河川公園の災害復旧の費用。

観光復興交付金関連事業

△2,535万円

広域観光事業の財源として予定していた東北観光復興交付金が削減されたための減額補正予算

機種は協定先の標準機を対象としているが、他のメーカーでも性能アップした機種を発売しているの
で、将来的には補助体系に含める想定のもと、長期的展望に立った取り組みが必要と
考えている。



■豪雨被害が繰り返される
桜木内川河川公園（西木町）

い。補助を進めていきたい。

答弁 現在は、新たにマルチコプターでの圃場の薬剤散布の体系を整えたい方々に

質問 マルチコプターには様々な機種があり、性能にも違いがあるので、農地の面積や形状などにより使い分けが必要と考えるが、市民が利用しやすい補助制度にするために今後はどうにしていきたいのか。

平成30年度補正予算 主な質疑

ここが知りたい
議論のポイント

れていたが、今回の削減により計画していた事業はやめてしまうのか。

答弁 今回、広域連携によるインバウンド事業を計画したが、関係するすべての自治体で当該交付金の削減となってしまう。冬期に仙台空港から田沢湖、雫石に誘客するバス運行は中止することになるが、その他の事業については、連携する市町間とも協議を重ね、東北観光復興対策交付金に頼らない予算の範囲内において展開していきたい。

用語解説

・インバウンド事業…外国人の訪日旅行を受け入れる事業のこと